

広報活動とコンテンツ収集

静岡大学図書館情報課 鈴木雅子
suzuki.masako@shizuoka.ac.jp

機関リポジトリ構築に必要なもの

- 制度設計とコンテンツ構築（別講）
 - 学内合意・オーソライズ
 - 運営体制
 - 予算の獲得とシステム構築
- コンテンツ確保
 - 各コンテンツのアプローチ
 - 広報・プロモーション

目次

- 機関リポジトリのコンテンツとは
- 各コンテンツの考えどころ
- コンテンツ収集：教員への広報
- さいごに

そもそも、機関リポジトリとは

- 大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス(ランチ)

学内構成員に提供するサービス！

機関リポジトリのコンテンツとは

- **所属研究者の研究成果と機関の活動成果**
 - 学術雑誌掲載論文、学会発表資料、記事、コラム、サイエンスデータ、ビデオ、音声、教材、紀要、学位論文
- コンテンツは増え続けるもの！
- 所蔵資料の電子化ではない
- メタデータだけのDB構築ではない

コンテンツの2タイプ

	個別モノ	一括モノ
代表的なコンテンツの例	学術雑誌論文、 学会発表資料、...	研究紀要、学位論文、 科研報告書、...
性格	所属研究者の研究成果	機関としての活動成果
出自	外で刊行	大学が刊行
対象物	そもそも把握しづらい	把握しやすい
アタック先	個々の教員	編集委、教授会など
収集範囲	教員の手元にしかない。過去のものはあまり残っていないので、目標をカレント分に絞らざるを得ない	初号から最新分まで組織的に。バックナンバーは刊行元か、あるいは書庫所蔵分のスキャンも。あとはアイデア次第
コストと効率	主として人的コスト。 がんばってがんばってがんばって やっと少しずつ集まる	主としてスキャン経費。 電子化の主体的意志をうまく喚起してIR 事業と接続し、作業ベースに落とす
IRの持続性への意義	教員ひとりひとりのIRへの理解と支持は事業継続の土台	いったん開拓できれば安定的なコンテンツ流入ルートに
いずれも	コンテンツの持ち主との 対話、プロモーション がすべて	

学内コンテンツ：紀要類

- 主な調整先：紀要編集委員会
 - 電子公開の主体は紀要発行母体、図書館は場所貸し（「図書館に持ってかれる」印象を与えないこと！）
- 新刊分：**ボーンデジタルで！**
 - 編集・査読プロセスそのものを電子化
 - 印刷業者からPDF納品
 - （改めて紙からスキャンすることがないよう）
- バックナンバー
 - 権利処理（事例）
 - 投稿規程を過去に遡って適用
 - HPや紀要、メール等でお知らせ
 - 著者ひとりひとりに許諾
 - スキャン（事例）
 - H大 スキャンのみ5円弱/p(3万ページ), メタデータ100円/件
 - O大 スキャンOCRつき 15円/p(1万5千ページ)

学内コンテンツ：学位論文

- 主な調整先：教務、学位審査委員会
 - 抜刷で学位申請するケース
 - 特許取得、出版予定との関係
 - 博論、修論、卒論／誰の／どこでとった？
- 新規授与分
 - 義務化（本文は著者に公開義務）
 - 事例：教務に提出・図書館は登録公開するだけ、
図書館で著作権調査を請け負う
- 過去の授与分
 - 解体再製本費用

参考：大学出版会の学術書

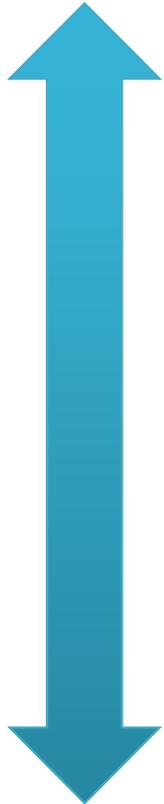
- 主な調整先：大学出版会
 - 外部組織である出版会とお話をする機会に
 - コラボレーションの事例（京都大学）
 - コンテンツは出版会側がチョイス
 - 「新しい学術コミュニケーションを開き、研究のすそ野を広げ、研究成果の結晶としての本の意味が見直されることで『研究書離れ』を克服したい」（京大出版会）

個別モノ

- セルフアーカイブ＝オープンアクセスは著者の権利
 - 教員が登録するか、図書館員が代行するか
- 収集方針・運用方針
 - 公表済文献に限るか
 - 前任地で執筆した文献も対象とするか
- 共著者の意向、出版社のポリシー
- 待っているだけではコンテンツは集まらない
 - 広報
 - **まず1件入れてもらう**(そうすればわかる)
 - ピンポイントな要求 → **この論文を!**
 - マンツーマンな対話
 - 説明しつくすことを目指さない

研究者への広報・アプローチ

広く認知度を高める



① 愛称、マスコット、グッズ、ちらし、
ポスター、魅力ある画面・機能

② 説明会

③ 説明会の質疑応答、切り番インタ
ビュー、個別コンタクト

④ 統計情報のメール通知

意義を知ってもらう

①まずともかく名前を売る

- リポジトリ?、コレクション?、アーカイブ?
- HUSCAP、CURATOR、HIR、KURA 等多数
(英語名称から)
- TeaPot、Barrel、紅 等



2015/2/20(東北学院大)

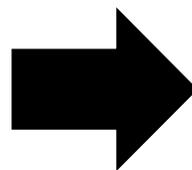
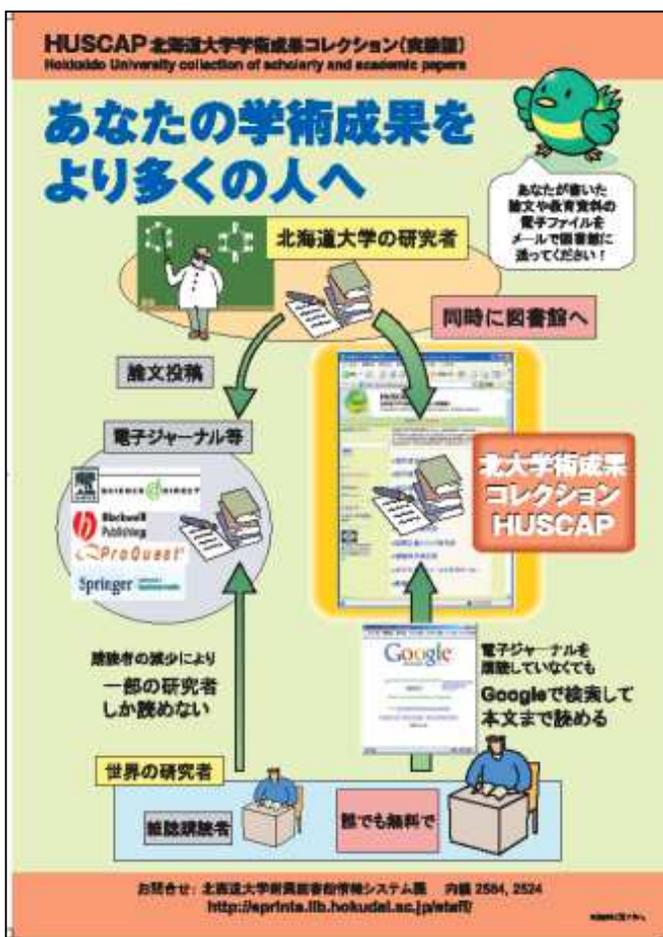


H26年度機関リポジトリ新任担当者研修



12

理解度向上よりも、認知度向上 (北大)



理系には発信を、文系には保存をアピール(広島大)

→ <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

広島大学学術情報リポジトリは
研究成果を必要とする
すべての人へ届けます

広島大学学術情報リポジトリ (HIR) は、学内の研究者・学生のみならずの教育研究成果物
を取集・蓄積・保存し、インターネットを通じて無償で世界へ発信する電子書庫です。
種々のサーチエンジンを通し世界中から検索可能となることで、これまで読むことのできな
かった潜在的な読者層を開拓します。

また、論文の視認性を向上させることで、インパクトの向上にもつながります。
ご自身の研究成果発信・保存の場として、学術情報リポジトリをご活用ください。

※2007年のダウンロード数：約16万件

論文などのコンテンツをご提供ください。

 広島大学 学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

→ <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

広島大学学術情報リポジトリは
研究成果を
後世に継承します

広島大学学術情報リポジトリ (HIR) は、学内の研究者・学生のみならずの教育研究成果物
を取集・蓄積・保存し、インターネットを通じて無償で世界へ発信する電子書庫です。
種々のサーチエンジンを通し世界中から検索可能となることで、これまで読むことのできな
かった潜在的な読者層を開拓するとともに、電子媒体として一元的・恒久的に管理するこ
とによって、研究成果の保存と、後世への継承を可能にします。
ご自身の研究成果発信・保存の場として、学術情報リポジトリをご活用ください。

※2007年のダウンロード数：約16万件

論文などのコンテンツをご提供ください。

 広島大学 学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

ILL 利用者へ 意識喚起 (北大)

学外への文献複写をご利用の方へ

あなたの研究論文を 読みたくても 読めない人がいます

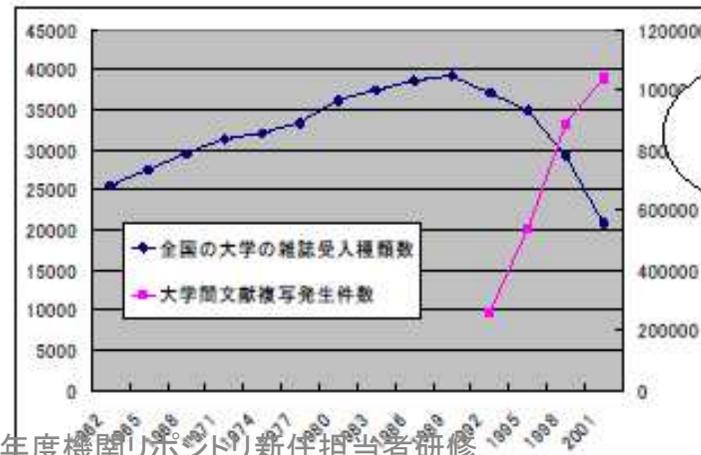
読者を増やそう！

HUSCAP:北海道大学学術成果コレクションの御案内

学術雑誌の価格は高騰を続けています。本学では共通経費化等の措置により、一定量のジャーナル・タイトルの購読を維持できていますが、それでも非購読誌の論文の入手にはこのように学外への文献複写に頼るしかありません。

世界の他の大学・研究機関でも研究に必要な文献の入手は非常に困難な状態になってきています。下図は、日本国内の大学における雑誌受入タイトル数と文献複写の発生数を示したものです。1980年代の終わりを境に、国内で閲覧可能なタイトルは半減しています。

あなたの研究論文を読みたくても読めない人がいます。著作を北海道大学学術成果コレクション(添付のパンフレットを御覧ください)から公開しませんか？



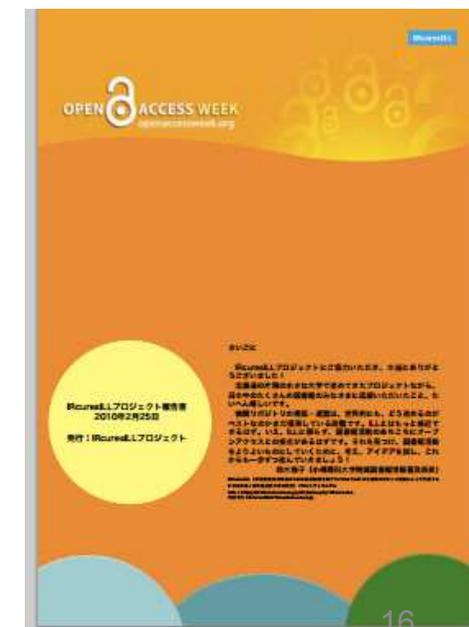
どこの大学でも
文献入手は
たいへん



IRcuresILL

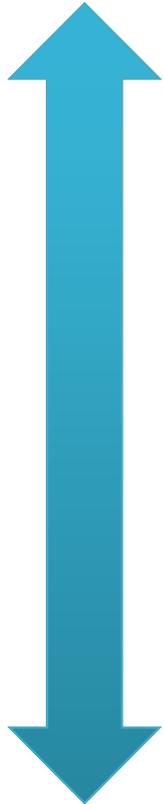
- ILLもIRも文献提供サービス
<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?IRcuresILL>
- 「所属著者の文献を、機関リポジトリでは無料でどんどん読んでもらうのに、なぜILLでは35円とるのか？」

- ILL依頼が来た論文はIRに掲載すべき
- IR担当者とILL担当者との協力



研究者への広報・アプローチ

広く認知度を高める



① 愛称、マスコット、グッズ、ちらし、
ポスター、魅力ある画面・機能

② 説明会

③ 説明会の質疑応答、切り番インタ
ビュー、個別コンタクト

④ 統計情報のメール通知

意義を知ってもらう

②説明会

- 説明は極力短く。質疑応答はたっぷり
 - 30分の時間をもらったのであれば、10分で説明、20分を質疑応答に充てる
- 能書きよりも、何をしてほしいのかを明確に
- スケジュールをはっきり
- 完全な理解を求めない
 - 一方的なプレゼンテーションだけで理解してもらうことは不可能。**質疑こそが説明会の中心**

いつ、どのように？

- 聞いた人がすぐに手を動かせる時期
- 1-2件でも本物のコンテンツを見せると効果的
 - なければ近隣大学の実稼動版を見せる
 - 「デモンストレーション用のデータベースを構築する際に重要なことは、「本物の」コンテンツを使うことである。」(エジンバラ大学、ノッティンガム大学)
- 自由参加型(参加者数は期待薄)
 - 閉会后、個別ヒアリングしやすい(後述)
- 別の集合機会の一部を充てる
 - 教授会などにお邪魔する
 - 情報リテラシーのついで、DB講習会の最後

一つの方法として

- 紀要の投入時期を遅らせる



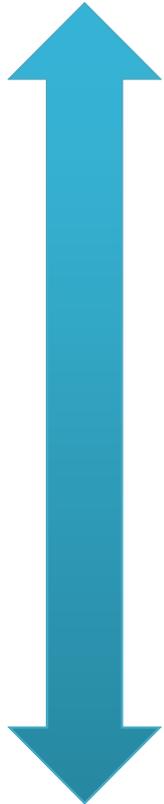
- 教員個人個人の協力が求められているということが明確に伝わる

– 「紀要を電子化する話か、僕には関係ないや」

– 「えー、ひとりひとりが文献を出すのか、めんどくさいな」(=めんどくさいと感じても、意図は伝わる)

研究者への広報・アプローチ

広く認知度を高める



- ① 愛称、マスコット、グッズ、ちらし、ポスター、魅力ある画面・機能
- ② 説明会
- ③ 説明会の質疑応答、切り番インタビュー、個別コンタクト
- ④ 統計情報のメール通知

意義を知ってもらう

きっかけはいろいろ

- 説明会が終わった後、その場で
 - 「さっきのご質問なのですが、実際のところですね...」
- 切り番インタビュー
 - 掲載論文について著者にインタビュー
- 研究室に訪問
 - 「5分10分で結構です」
 - 実際には、時間と話題の続く限り、快くつきあってもらえるケースが大半。最長2時間(北海道大学)

個別コンタクト

- 説得しに行くわけではなく、話を聞きに行く
 - 研究について、投稿雑誌について、OAについて、図書館について → **図書館活動全体にとって有益**
- きっかけは何でも
 - 質問が来たら、会いに行く
 - 「ご意見について、もう少し詳しく助言をいただきたい」
 - ファイルが送れない「USBメモリ持って今から伺います」
 - 図書館でこんなことを考えている、アドバイスほしい
 - 先生が読んでいる雑誌や投稿する雑誌について教えてほしい
 - ILLで、カウンターで、コピー機で、道端で(研究室を訪問しなくても)

まずは1件、この論文を

- 参加してもらえば、意義がわかるはず！
- 「何でもいいからください」ではなく「この論文をください」
 - 文献情報DB検索結果から、研究業績から
 - サイエンスカフェ、市民講座、講演会
 - ニューズな論文（iPS細胞、ノーベル賞（京大））
 - たまたま見かけた論文、ILLで受付けた文献
 - 出版社版IR掲載OKの文献

個別コンタクトの企画

- 誰から？
 - トップから
 - (事例) 学位授与式のあいさつで話題に
 - 身近な先生から
 - (事例)「いいとも作戦」(北大)、お昼に生協で(兵教大)
 - 全員！(帯畜大)
- いつ行くか？
 - 構築前
 - (事例) 運用方式、構築の参考に
 - 構築後

個別コンタクト・質疑応答の準備

- 予備知識
 - 相手のこと。発表論文等
 - 相手の研究分野の主な出版社ポリシー
 - 雑誌危機（購入雑誌タイトル、EJ予算）
 - インパクトファクター
 - オープンアクセスジャーナル、APC
 - 海外の情勢（NIH、英米議会、義務化）
 - 日本の状況（日本のIR数、先行大学のやり方）
- こわがらずに誠実に熱意を持って

DRFサイトに質疑応答集もあります

<p>リポジトリをつくる ↑</p> <ul style="list-style-type: none">リポジトリをつくる各機関運用指針一覧リポジトリシステムを試す事例報告集	<ul style="list-style-type: none">名古屋大学(右記中の「著作権許諾書式」) http://info.nul.nagoya-u.ac.jp/info/九州大学 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drfl/msg00149.html http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drfl/msg00169.html
<p>リポジトリを育てる ↑</p> <ul style="list-style-type: none">リポジトリを育てる実務のための関連資料技術関連情報運用議論あれこれ	<p>▶ 質疑応答・FAQなど ⓘ</p> <ul style="list-style-type: none">学内研究者向け説明会質疑応答集(北海道大学) 📎 Hokudai_QA.xls学内研究者向け説明会質疑応答集(三重大学・20070110差替え) 📎 Miedai_QA20070110.xls
<p>さらに深く知る ↑</p> <ul style="list-style-type: none">もっと知りたいリポジトリDRFPedia(用語集)関連資料集リポジトリ関連報道一覧リンク集	<ul style="list-style-type: none">http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/faq.html(東京大学)http://info.nul.nagoya-u.ac.jp/info/index.php/FAQ(名古屋大学)http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/portal/main/faq.html(広島大学)https://qir.kyushu-u.ac.jp/info/index.php?FAQ(九州大学)学内研究者向け説明会質疑応答集(金沢大学, 平成18年度教授会) 📎 kura_qa2006.pdf
	<p>▶ 論文投稿とIR登録の関係 †</p> <ul style="list-style-type: none">機関リポジトリと著作権(北海道大学) 📎 H18ポータル研修著作権北大.ppt論文投稿とIR登録の関係図 📎 論文投稿とIR登録の関係図20061222.ppt 📎 論文投稿とIR登録の関係図20061227.ppt
<p>recent(8)</p> <p>2015-02-02</p> <ul style="list-style-type: none">DRF Monthly	<ul style="list-style-type: none">http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php(SHERPA/RoMEO)Sherpa Romeo Widget: http://www.rwidaets.co.uk/wiki/doku.php?id=wiki:romeo

④統計情報のメール通知

- 各文献のダウンロード回数を月次で提供者にメール通知
 - 北大、小樽商大、筑大等
 - 北陸先端大:共著者にも!
- 「意外なところで、あるいは反対にもっともな所で読まれていたりして、大変興味深く、かつ今後の刺激になるデータです。今後とも楽しみにしております」

Barrelご提供文献の閲覧状況(20XX8年〇月)

〇〇先生
日頃より附属図書館の事業にご協力頂き..…

附属図書館では、「小樽商科大学..…(Barrel)」に著作を提供下さったみなさまへ、月1回、閲覧状況をお知らせしています。

以下は、文献ごとの閲覧回数です。より詳しい内容もご提供できますので、ご希望の方は…

※詳細版の内容はドメイン別の閲覧回数です。
.edu(米国教育機関)から何回、.otaru-uc.ac.jp(小樽商大内)から何回、といった内容になります。

来月以降こうした通知が不用であれば..…

【20XX年〇月 文献別被閲覧回数】

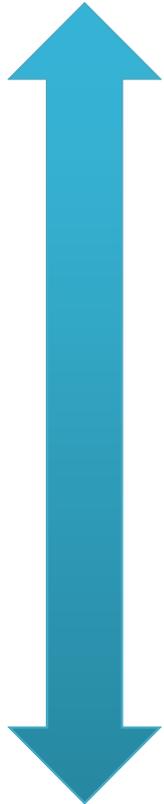
○ダウンロード XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

○ダウンロード XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

:

研究者への広報・アプローチ

広く認知度を高める



- ① 愛称、マスコット、グッズ、ちらし、ポスター、魅力ある画面・機能
- ② 説明会
- ③ 説明会の質疑応答、切り番インタビュー、個別コンタクト
- ④ 統計情報のメール通知

意義を知ってもらう

全部やるのがよい

- ともかく名前を売らなければはじまらない
 - しかしちらしはスパムどまり
 - 説明会はうまくいけば、効率よく広報できる
 - 個別コンタクトは時間がかかる
-
- うまく組み合わせ
全部やる！



模擬説明会

(講師が過去に実際に使用したプレゼン資料で実演)

さいごに

- 学内研究者(著者)に対する図書館のサポート。
 - 教員と作り上げるもの。信頼関係を結ぶきっかけ
 - 好きになってもらえば、おのずからコンテンツは集まる
-
- 先行大学のいいところはもらいつつ、
 - 自大学に合った進め方で。しかし、
 - **図書館から飛び出て、教員と話すことが一番大切**

図書館自らが率先してコンテンツかき集め戦略を立てて、実行に移さないかぎりは、IRのコンテンツが増え続けることはない。もし図書館がこの仕事を軽視したり放棄するのであれば、それはまともなIRであることを捨てる行為に等しい

(阿蘇品治夫「機関リポジトリを軌道に乗せるために為すべき仕事」2005.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/48/8/48_8_496/_pdf)